

## 第2章 学校での実践報告

実態調査の分析を進めていく中で、地域に開かれた学校づくりをするための、次の四つの課題が明らかになった。

- ① 家庭や地域社会との連携を図ることを、学校の教育方針に位置付けるだけでなく、教科領域などの年間指導計画へも位置付ける必要がある。
- ② 地域の実情に即した人材マップ、文化財や環境リストなどの作成の必要がある。
- ③ 人材活用に関しては、ねらいを達成するために、十分な事前打合せの必要がある。
- ④ 地域社会、他校種との連携をとおして、幅広い人々との出会いの大切さを味わわせる必要がある。

これらの課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校の実践を示したい。

### I 小学校における実践（鹿島郡波崎町立柳川小学校）

#### 1 研究主題

家庭や地域社会との連携を図る学校経営の在り方

— 地域の人材を生かした社会科の授業を通して —

#### 2 研究のねらい

- (1) 家庭や地域社会との連携をより深め、開かれた学校づくりに努める。
- (2) 地域素材の教材化を図るために作成した人材リストなどを活用することにより、社会科における家庭や地域社会との連携の在り方を究明する。

#### 3 研究の方法

- (1) 校内研修の一環として、「家庭や地域社会との連携を図る学校経営の在り方」についての研究を位置付ける。
- (2) これまでも環境教育などをとおして、家庭や地域社会との連携を図る活動を進めてきた。さらに、学校経営の中で、家庭や地域社会との連携について、地域社会との結びつきが強い「社会」という教科に視点を当てて研究を深める。
- (3) 人材リストと地域の文化財や環境リストを活用した授業を実施する。具体的な内容としては、6年生の社会「戦争と新しい日本の出発」、「私たちの生活と政治」の単元で実践する。

#### 4 実践

- (1) 地域の人材を生かした授業実践

ア 単元名「戦争と新しい日本の出発」

(ア) 単元目標の分析の段階

地域の人材をどのように授業に生かしたらよいかを、教師側がしっかり把握するために目標分析をした。児童が、地域の人材からどのような情報や知識を得るのか、また、どのようなことに興味・関心をもつのか、予想するためでもある。

(イ) 学習計画の検討の段階

効果的な学習にするため、地域の人材をどのように学習過程に位置付けたらよいか検討した。児童の興味・関心及び学習意欲が、単元をとおして継続するためにも重要なことであると考えた。「つかむ、調べる、まとめる」という学習過

程の中で「つかむ」という単元の導入に地域の人材を生かしていくことで、児童の興味・関心及び学習意欲の継続を図る。

(ウ) 地域人材を生かす土壌づくり

講師（地域の人材）と教師が心を通わせることが、何よりも大切なことであると考え、それぞれの講師の家庭を訪問し、どのような形態で授業を進めるかなどについて打合せた。

最初は児童の前で話すことに不安を抱いていた様子であったが、話の柱立てや使用する資料の確認をしていく中で、不安が少しずつ取り除かれた。この打合せの中で、教師側としても日中戦争や太平洋戦争についての認識を深めることができた。

地域の人材をより生かすため、戦争や戦時下の国民生活をイメージ化する資料、疑問や問題が生まれるような資料を、意図的・計画的に教室内に展示し、単元に入る前の学習環境を整備した。これらの資料収集に当たっては、各家庭に働き掛けて協力を得た。

(エ) 実際の授業と児童の反応

当日は二人の講師から話を聞いた。当時の写真や資料等を用いた戦争体験者の話を、児童は真剣なまなざしで聞き、一生懸命ノートに記録していた。教科書や参考書には書かれていないことを知り、様々な学習問題をもつことができた。

体験談を聞いたあとの児童の反応をいくつか述べると次のようになる。戦地で厳しい規律や粗末な食生活は、今の児童にとっては想像もつかないため、とても驚いた様子だった。戦地では軍医がいたため、病気やけがの手当てについては国内よりも充実していたという内容に、驚きの声をあげていた。また、出兵が決まった人の、遺言書ともいえる手紙の朗読を聞き、家族への愛情の深さと残される者のつらさを感じ、今日の平和のありがたさを痛感することができた。

このようなことは、戦後の日本が民主的な国家として出発したことを理解させる上で、大変有意義であった。

イ 単元名「わたしたちの生活と政治」

(ア) 児童の疑問

本校の学区内には当初2か所の信号機しか設置されていなかった。しかも、その2か所とも学校から離れた場所のため、そこを利用する児童は少なかった。ところが、最近学校の近くに新しく信号機が設置された。このことをめぐって地域住民の生活と政治の関係を学習した。「なぜ、設置されたのか。」「住民の願いで設置されたのか。」「町の計画で設置されたのか。」という話合いが続き、その中でも様々な疑問が生じてきた。

(イ) 問題解決のために

信号機設置をめぐる問題を含め、様々な疑問点を解決するために、町の関係者から直接話を聞きたいという声が多くでたので、人材リストをもとに地区在住の有識者に話を聞くことにした。

(ウ) 学習過程における地域人材の位置付け

地域の人材は、「つかむ、調べる、まとめる」という学習過程の中の、「調べる」過程の一部に位置付けられる。「調べる」過程では、その都度新しい疑問が生じることが予想できるため、児童の疑問をまとめ、有識者との打合せを行った。

(エ) 実際の授業と児童の反応

児童の質問に答えるという形式で授業を進めた。有識者の話はとても分かりやすく、児童の素朴で初歩的な質問に上手に応じてくれた。そのため、児童の問題解決への意欲を高めることができた。用意してくれた波崎町の信号機設置箇所図、町税金及び国・県の交付金の使われ方などの資料に、児童は特に興味をもった。

また、信号機を設置するには警察と町とが深く関わっていること、町の施設を作るにも県の協力があることなど、町の行政がいろいろなところと結び付いていることに気付いたことは大きな成果であった。

(2) 人材リスト作成と年間指導計画への位置付け

ア 人材リスト作成過程

(ア) アンケートの実施

PTA会員へ「地域教材開発への協力のお願い」という通知を出し、社会・生活などの学習に活用できる人材と地域の文化財や環境をリストアップした。



地域の人材による授業風景

(イ) 人選について

収集した人材に関する資料が、児童の学習に活用できるかどうか校内で検討する。活用できる人材

に関しては、来校か訪問かの検討も行う。

(ウ) 紹介された方との交渉

アンケートの実施により紹介された方のところへ、協力を依頼するためにかがう。その中で、アンケートからは知り得なかった人材をさらに紹介してもらうことができた。

(エ) 人材リスト作成

協力の承諾を受けた方々の名前と住所・電話番号を单元ごとに整理する。その際に関連する施設なども記録する。さらに、予想される学習活動や学習方法、備考欄も併せて記録し、活用しやすいよう工夫した。

イ 年間指導計画への位置付け

人材リストと各学年の年間指導計画を有効に活用するため、人材リストを年間指導計画に組み入れることで、各単元の学習に変化をもたせることができる。

表17 地域教材・人材リスト指導資料一覧表 (抜粋)

No	分類	学年	単元名・題材名	名前	施設名	住所	電話番号	学習活動・内容	学習方法	留意点
1	生活 伝行 統事	1年 2年	昔から伝わる遊び (駈回し) (瓶上げ)	波崎町第八区老人会代表 〇〇〇〇		省略	省略	昔から町に伝わる遊びについて、その種類について知り、遊び方を体験する。	説明を聞く 体験学習	昔から町に伝わる遊びを通して、当時の様子を知らせる。
2	生活	1年 2年	波崎町の自然を 探検しよう		利根公園 童女松原公園			波崎町の自然の様子について探検し、そのよさについて知り、自然と触れ合う。	探検 散策 地図作り	町の特色について探検学習を通して、地図作りや遊びにより自然を知らせる。
3	生活	2年	子ども郵便局を 開こう		若松郵便局	省略	省略	郵便局の施設を利用し、仕事の内容を理解するために体験学習をする。	体験学習 見学	仕事の内容について体験させる。
4	社会 県指定 文化財	3年	波崎町に残る古いもの調べ	神善寺(住職) 〇〇〇〇	神善寺境内 (大タブの木)	〃	〃	タブの木の由来やその当時の様子について知る。	説明を聞く 見学	町の特色ある植物について説明を聞きその木の由来について知らせる。
5	社会 県指定 文化財	3年	波崎町に残る古いもの調べ	神善寺(住職) 〇〇〇〇	神善寺境内 (木造釈迦涅槃像)	〃	〃	寺の中にある寝釈迦像のできた時代と当時の様子やつくられた目的について調べる。	説明を聞く 見学	仏像のできた由来とその当時の町の様子についてとらえさせる。
6	理科 社会 環境	3年	花とみどりの町づくり	波崎町第八区老人会代表 〇〇〇〇		〃	〃	波崎町の花づくり運動の経過について話を聞き、町の美化運動の実状について知る。	説明を聞く	町の自然環境への働きかけと活動の様子についてとらえさせる。
7	社会	3年	みんなの公民館		(若松公民館)	〃	〃	公民館の使われ方や仕事の内容について考える。	見学	公民館の見学についてポイントを明確にする。
8	社会 文化財	3年	波崎町にある古いもの調べ		甲頭稲荷	〃	〃	甲頭稲荷の由来と祭りの由来を知る。	見学	五穀豊穡を祈った祭りの由来について知らせる。
9	社会	3年	町工場で作っているもの	代表取締役社長 〇〇〇〇	タカラスタンダード	〃	省略	波崎町で作っている工業製品について、その種類と特色を調べる。	見学	漆し台等を作っている工場を見学し、町の工業の特色についてつかませる。
10	社会的 施設	3年	道具の歴史 (道具の歴史的变化)		農業研修センター (波崎町)	〃	〃	昔の人々が使っていた道具の移り変わりについて実物を見ながら学習する。	見学 副読本の活用	昔使用されていた道具の歴史について、当時のくらしの様子に気付かせる。

## 5 研究のまとめ

今回の実践で、直接児童との関わりをもった講師は、小学校に来て本当によかったと大変喜んでいました。家庭や地域社会との連携を大切にしながら、教科指導や諸行事の計画に人材リストなどを位置付けたことによって、学校と地域との関係がより開かれたものになった。今回の実践を通して、開かれた学校の基礎づくりができたことは、とても大きな成果であった。

また、児童が地域の人材からも多くのことを学べたことは、主体的に学習に取り組む上で、大変有意義であり、新しい学力観に立った授業を構築する上でも大切なことであることを再認識できた。しかしながら、「人材」と一言で言うが、地域に住んでいる方に積極的に働き掛けをしなければ、それはただの「人」にすぎない。地域の方に進んで働き掛けることで、「人」から「人材」に変わり、それが真の「開かれた学校づくり」につながるということも同時に感じる事ができた。

地域社会とのかかわりを重視しながら、社会の学習を進めることは、地域に開かれた学校づくりを進める視点からきわめて重要である。また、社会的事象を身近な問題としてとらえ、主体的に学習する態度を身に付ける上でも重要であることが分かった。

今回実践した学習によって、児童が地域の社会的事象に目を向け、積極的にかかわっていくことが今後期待できる。

## Ⅱ 中学校における実践（竜ヶ崎市立愛宕中学校）

### 1 研究主題

家庭や地域社会との連携を図る学校経営の在り方

— 美術科における人材活用の授業を通して —

### 2 研究のねらい

- (1) 家庭や地域社会との連携をより深め、開かれた学校づくりに努める。
- (2) 地域の優れた専門家と連携した授業をすることにより、生徒の地域社会への関心を高め、授業に厚みと変化や広がりをもたせる。

### 3 研究の方法

- (1) 校務分掌組織に「学校週5日制研究部」を位置付け、本研究の母体とする。企画会、（校長・教頭・教務）、運営委員会及び職員会議等とおして、「地域に開かれた学校経営」の視点から、連携の在り方・分野等について検討し、指導計画を作成する。
- (2) 授業の活性化、学習意欲の向上、多様な教育活動を展開するために、地域の人材を活用した授業を行い、生徒の意識の変容をとらえる。

### 4 実践

〈地域の画家による美術科の授業〉

日々の授業の中で、ややもすると限られた教科しか意欲を示さない生徒に刺激を与え、人間性の育成にも配慮したいとの視点から、講師として、元教師で幅広い人生経験の持ち主である画家の廣津龍伍氏（一水会会員）に、美術科の授業での協力を依頼する。

(1) 実施日 平成5年10月29日（金）第5校時

(2) 対象学年 第1学年

(3) 題材名 「形の個性を見分ける」

(4) 題材の目標

- 身近なものを深く観察することによって、形のおもしろさや色の美しさを発見できるようにする。（関心・意欲・態度）
- 全体のバランスを考えて構図を決め、下絵を描くことができる。（発想・構想）
- 発見した形や色を効果的に表現することができるようにする。（創造的な技能）
- 優れた作品を鑑賞し、そのよさを味わうことができるようにする。（鑑賞）

(5) 題材について

ア 指導観

普段の生活の中で、見慣れている物には自然と親しみがもてる。花や果実や野菜などのように時間の経過の中で姿・形を変えていく物もあれば、器物や道具類などのように変わらぬ形をもっている物もある。それらの形や材質や大きさの異なる物を自由に組み合わせることで、変化と統一のある豊かな絵の構図をつくることが可能である。

イ 指導計画（8時間扱い）

第1次 題材のねらいを把握し、モチーフの描き方を知ることができる。（1時間）

第2次 構図を決定し、スケッチをすることができる。（2時間）

第3次 水彩絵の具の扱い方や技法について知り、彩色することができる。（4時間）

1時 水彩絵の具の基本的な扱い方を知り、彩色する。(本時)

2時 立体感や材質感などを意識しながら表現する。

3時 同上

4時 全体的なバランスを見ながら仕上げる。

第4次 友人の作品を鑑賞し、相互評価及び自己評価をすることができる。(1時間)

※ 指導計画の第3次1時における、水彩絵の具の基本的な扱い方とは、色のつくり方、混色・重色の違い、絵の具の量に対する水の量、筆の使い方などがあげられる。中学生となり、図工から美術の学習に変わって約6か月を経過した生徒に対して、美しい色に気付き、色をつくり出す喜びを少しでも多く体験させたいとの願いから、多方面から彩色に当たって指導できないかと考えた。

そこで、画家として実際に活動している人なら実践してきた技術をすぐ表現につなげられるのではないかと考え、この時間に地域の人材を活用した。

#### (6) 本時の学習

##### ア 目 標

水彩絵の具の扱い方や重色、混色の方法を理解し、立体感や質感などが出るよう工夫して彩色することができる。

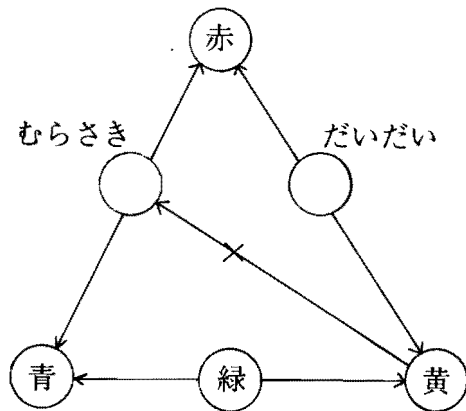
イ 準備・資料 静物画の参考作品 水彩絵の具一式 モチーフ

ウ 展開 (生徒の活動・内容のみ)

- ・ 水彩絵の具の扱い方や技法について知る。
- ・ 大きく色をおいてぬり重ねながら彩色する。
- ・ 次時の学習内容について見通しをもつ。

#### (7) 主な授業の記録 (抜粋) Tは廣津画伯

流 れ (発問を中心に)	生 徒 の 反 応
導入 芭蕉の俳句 「山路来て 何やらゆかし すみれ草」 T 美術を学習する心を伝える。 ・ 何げなく見過ごしてしまうことや物を見つけることだ。 ・ 心が安らぐような優しさを表現することだ。 T 自分の絵の具の中から、白と黒は入れないで好きな色を3色選んでみよう。 T 3色選んだら、その3色プラス白黒で着色してみよう。 T ここで注意することは？ 赤, 青, 黄色の入っている人は？ 赤, 青, 黄色ってどんな色？ そう、三原色だよね。	・ いつもと違った雰囲気ので授業が始まったので、何となく緊張感が漂っている。  ・ どれにしようかと、少し楽しみながら自分の好きな色を選んでいる。 ※無彩色→白, 黒, 灰色 有彩色→無彩色以外のもの 無彩色+有彩色=有彩色  「三原色」という声



T (図を板書しながら) 2色は混ぜてもよいが  
3色は混ぜないこと。混ぜるとどんな色になる  
だろう。

T そうだね、黒に近くなるんだよ。でも、あま  
りきれいな色でないからこれはしてはいけな  
いよ。

T ピンの色をそのまま塗るもよし、自分で考え  
て塗るもよし。さあ、着色してみよう。

- ・ いざ塗り始めると、ほとんどの生徒が  
見たままの色使いをしており、どのようにしたら思いどおりの色ができ  
るか考えている。
- ・ 順調に色づくりをし、着色が始まった。自分の選んだ色で着色できると  
いうことで、生徒の表情は生き生きしている。

T 絵の具の色だけの表現ばかりでなく、水の量、  
筆の使い方を工夫すると、表現が広がるよ。

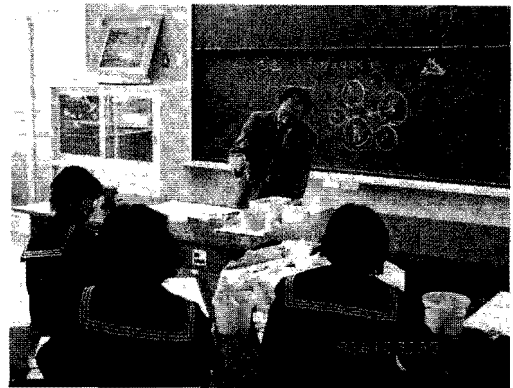
T 先生が筆を使って家の形を描いてみよう。

T 筆の元の方は水を、先の方は絵の具をたくさ  
ん含んでいる。1本の筆を上手に使うとグラ  
デーションができてしまうんだよ。

T 水をたくさん含んだ筆を使うと、滲んでしま  
う。

薄く着色する場合は筆を布などで絞ってから  
画用紙に着色すると失敗しないんだよ。

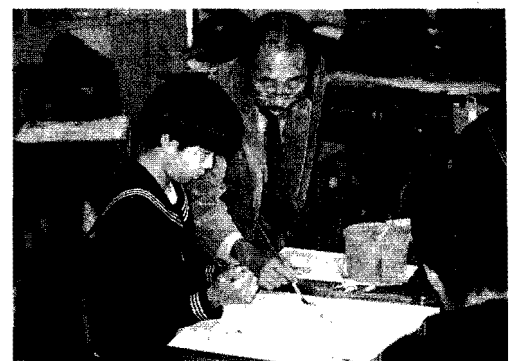
T そろそろ時間だよ。(一時作業をやめさせ、  
本時の内容を確認して後片付けに入る。)



廣津画伯による授業

「黒」という声

- ・ ピンの色を自分で考えてということに  
対して、戸惑いがある。



作品制作風景

- ・ のびのびとした様子で作業を進める。  
布やティッシュペーパーなどを使用し、  
水分の調整をしている。

(8) 生徒の感想 (抜粋)

ア 廣津先生は、普段見逃してしまうような、物の良いところ、美しいところを見つけて絵を描いたりすることが、美術の勉強だと話された。

イ 10月29日は美術の時間で、有名な画家の先生の廣津先生が教えに来てくれた。自分では絵の具の使い方や塗り方などを徹底的にやるのかと思っていた。しかし、先生の授業は予想と全く違っていた。それは、美術をするには優しさが必要で、細かいところまで目を通すことが優しさだと言う。その優しさは誰にでもあると話された。

ウ 廣津先生に色塗りのコツを聞いて、色塗りの感覚が変わった。今までは「色塗りは難しいし、面倒だ。」と思っていたけれど、「こんなに簡単に描けて、少ない時間で描けるんだ。」と思うようになった。いつも、授業内で色塗りが終わらなかったけれど、今度は終わると思うと、うれしくなる。

エ 「人はもちろん、雑草でも、動かない物でも一つは必ずいいところがある。そのいいところを探して絵で描き表す。」という心が、私には分かりました。

オ ぼくは、「画家になるためでなく、優しさを養うために美術の授業がある。」という先生の言葉に心をうたれました。次の美術の授業が楽しみです。

(9) 美術科教諭二人の感想 (抜粋)

ア 私たちが生活していく中で、関わっていく人々全てに目を向け、その人の良さや個性のすばらしさを見つけることが美術教育の根底にあると思われる。そのことを生徒の心に強く印象づけることが出来たことは、大きな収穫であった。また、失敗しないための方策というものを教えて頂き、生徒も作業しやすかったのではないかと思う。「濁らないように気を付けよう。」だけでなく、具体的に説明してくださったことは、大変勉強になった。

イ 授業全体の参観をとおして、やはり視点の違いを感じた。教科はそれぞれ独立したものであるが、美を感じ表現する心を養うことは、絵を美術的に描いたり鑑賞したりするだけでなく、もっと文学的、科学的要素を加えなければならないと反省している。

ウ たった50分の授業の中で、美術に対する意義や考え方、日々の取り組み方、表現する技術や技法などを教えて頂き、本当に中身の濃い充実した授業であった。

## 5 研究のまとめ

種々の課題を克服して、地域の専門家による学校の指導計画に基づいて授業を実施した結果、授業記録、生徒及び美術科教諭の感想のとおり、かなりの成果が得られた。色の塗り方の技法のみならず、温厚な人柄から静かに発せられる一語一語は、生き方の指導そのものでもあった。地域社会と連携し協力しあうことの大切さが再確認できた。しかし、中学校という特色上、どの教科・領域でも人材活用ができるという段階に達するには、まだまだ時間を必要とする。

かけがえのない可能性を秘めた生徒が、変化の激しい生涯学習社会の中で、どう自分の個性を發揮し、自己実現を図っていくか、解決すべき課題は大きい。その生徒のより良い成長を支援するために、今後、人材リストの整備と全体計画及び年間指導計画の充実、校内研修をとおした教職員の意識改革を、一層進めていかなければならない。



### Ⅲ 高等学校における実践（茨城県立山方商業高等学校）

#### 1 研究主題

家庭や地域社会との連携を図る学校経営の在り方

— 特色ある学校づくりを目指して —

#### 2 研究のねらい

- (1) 家庭や地域社会との連携を深めて、開かれた学校づくりに努める。
- (2) ボランティア活動や老人会招待クロッケー大会など、家庭や地域社会との連携による教育活動をとおして、社会のニーズや変化に対応する健全な人材の育成を図るとともに、それぞれがもつ教育力を学校教育に反映させ、特色ある学校づくりを目指した学校経営の在り方を究明する。

#### 3 研究の方法

- (1) すべての教職員が研究実践に主体的に取り組めるように、「家庭や地域社会との連携を図る学校経営研究部」を指導体制に組み入れ、校務分掌との有機的な関連を図った組織を編成するとともに、各校務分掌が研究目標に向けて機能できるようにする。
- (2) 研究を確かなものにし、深みのあるものにするために、研究部を中心に生徒の実際の姿や過去の実態を検討し、すべての教職員の共通理解を図り、一体となった実践活動を展開する。次の表は、平成6年度家庭や地域社会との連携を図る学校経営のための全体計画（抜粋）である。

表18 平成6年度家庭や地域社会との連携を図る学校経営のための全体計画（抜粋）

地域社会へのボランティア活動		家庭や地域社会との連携		教育関係諸機関や他校との連携	
活動内容	担当部・係	活動内容	担当部・係	活動内容	担当部・係
パソコン・ワープロ教室	商業科	ふれあい運動 P T A 総会、各委員会、支部会、町生徒指導委員会等	生徒指導部 渉外部 P T A	町租税教育推進協議会	教務部 社会科
学校周辺の清掃・奉仕活動	保健厚生部 生徒指導部 生徒会	生徒の海外派遣研修事業	外国派遣研修事業委員会	教育懇談会	進路指導部 生徒指導部
地域の祭への参加	特活係 生徒会 (本部)	地元伝統工芸の体験学習	商業科	青少年育成町民会議	生徒指導部
老人ホーム慰問活動	特活係 生徒会 (生活部)	老人会招待クロッケー大会	特活係 生徒会 (本部)	町交通安全教師の会	生徒指導部
				地区学校警察連絡協議会	生徒指導部
				すこやか青春対策事業	保健厚生部
				環境保全町民会議	保健厚生部
				消費生活センターのヤング講座	第3学年 家庭科

#### 4 実践

##### (1) 地域へのボランティア活動

###### ア パソコン・ワープロ教室

P T A 会員や地域住民を対象に、パソコン・ワープロ教室を開いている。パソコン・ワープロを学習している生徒が教員と共に、参加者の指導や相談に応じる形式で進められる。最初は教育庁生涯学習課の依頼で始まったが、現在は町教育委員会主催から本校独自の講座に発展してきている。学校の施設・設備が有効に活用され、本校を地域の人に理解していただく機会となっており、また生徒も教えることの難しさ・楽しさを実感しているようである。

## イ 学校周辺での清掃・奉仕活動

生徒による学校周辺の駅や公園の清掃活動を10年以上続けている。生徒の自主的な活動に始まり、現在は生徒会を中心に毎週2回の清掃活動に発展・定着し、平成3年度には、新聞社からボランティア団体として表彰を受け、副賞でリヤカー等を購入し、ゴミ回収の広域化・効率化が図られている。

## ウ 地域の祭への参加

山方町主催の「あゆの里まつり・やまがた宿ふれあいまつり」がある。これに生徒会が中心となり企画・運営から参加し、祭りイベントやゴミ収集・処理などのボランティア活動をしている。大きなイベントに企画段階から終わりまで参加した貴重な体験は、生徒会行事などの企画・運営に役立っている。

## エ 老人ホーム慰問活動

生活部を中心に近隣の老人ホームを慰問して相互交流を図り、高齢化社会の実状を理解するとともに介護の体験実習を行っている。この慰問活動は部活動として行っており、生徒たちの自主的な活動は老人ホームの関係者から大変感謝されている。

## (2) 家庭や地域社会との連携

### ア ふれあい運動

P T A総会、支部会、委員会活動などのほかにふれあい運動として、保護者との連携による登校指導などを行っている。また、支部会親善バレーボール大会には、保護者、生徒及び教職員が自主的に参加し、共に汗を流す過程で相互理解を図り信頼関係を一層深めている。

### イ 生徒の海外派遣研修事業

本校の生徒会活動の活性化と地域のリーダーを育成するため、文化遺産に富み、産業経済面において優れた近隣諸国に生徒を派遣し、研修させている。

平成5年度からスタートしたこの海外派遣研修事業（派遣先：シンガポール及びマレーシア）に対し、地元をはじめ近隣町村も協力的であり、その成果が上がりつつある。参加生徒は学校内外でリーダーシップを発揮し、本校の活性化や進路先職場の原動力となり、活躍しはじめている。平成6年度は、派遣人数を倍増したところ、3.3倍の応募者があり、盛り上がりを見せた。現地学生との交流のほかシンガポールでの環境対策学習やデパートなどの見学を加え、研修の一層の充実を図った。帰国後は、校内での報告会をはじめ、地域で開かれる催事や広報紙などでも発表した。

### ウ 地元伝統工芸の体験学習

山方町の伝統産業である西の内和紙を生徒たちの手で传承しようと、平成6年度から職業科に新設された「課題研究」の授業に導入した。この和紙は日本三大和紙（美濃和紙、越前和紙、西の内和紙）の一つであり、指導者の菊池五介氏は国の無形文化財に指定されている人である。生徒たちは、この和紙による卒業証書作りに意欲的に取り組んでいる。



和紙による卒業証書作り

この作品製作の学習のねらいは、作品を作る楽しさや完成させる成就感を味わう中で

学習意欲を高め、勤労感や職業観の育成にある。

これらを取材した新聞社は、「郷土の伝統、西の内和紙を継承する高校生：世界で一枚、手作りの卒業証書」「うっすらと光りを通す透かしの校章は、この作業に携わった生徒の誇りを、控えめに主張しているようだ。」などと紹介し、NHKテレビは、「手作りの卒業証書、授業で伝統の和紙作り」とのタイトルで紹介した。

この和紙は本校の海外交流にも一役買い、好評を博している。地域に根付いた伝統工芸を自分たちで作りあげることによって創造力を育て、豊かな感性をもった人間に成長して欲しいと願っている。

表19 地域の伝統工芸家による第3学年「課題研究」学習指導計画表

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4	デザインの基礎 イラストレーション	10	紙漉き実習 包装紙, ポスター
5	レタリング 日本の文字, 英数文字	11	紙漉き実習 卒業証書
6	西の内和紙紙漉きの基礎	12	シルクスクリーン印刷実習 卒業証書
7	紙漉き実習	1	シルクスクリーン印刷実習 イラストレーション, ポスター
9	グラフィックデザイン カッティング法, 写真製版法		

#### エ 老人会招待クロッケー大会

生徒会が町内全ての老人会クロッケーチームの選手・役員を招待し、企画、招待状の作成・配布、組合せ抽選、表彰、接待などすべて生徒の手で運営される。町内18クラブ約150人が参加した。高齢者ゆえの気配りや迅速な運営が要求されるが、世代を越えた心温まる交流は、普段では得難い貴重な体験になっている。

### (3) 教育関係諸機関や他校との連携

#### ア 町租税教育推進協議会

税に対する理解が健全な社会人になるための欠かせない条件として、町租税教育推進協議会主催の租税教室や税に関する標語・作文の募集に、積極的に参画している。租税教室における太田税務署長の「税金の種類について」の講演は大変好評を博し、有意義な教室となっている。標語・作文では入賞者もでており、生徒たちの関心の高さをうかがうことができる。

#### イ 教育懇談会

本校生徒の出身中学校へは、毎年6月に第1学年担当が出向き、該当生徒の情報交換を行って、中学校との連携を深めている。

地元の中学校との教育懇談会は、行政側からは町長や助役などが出席し、学校側からは校長やPTA会長などの関係者が出席し、毎年2回行っている。この懇談会で情報交換などを通して町内の教育活動に関する共通理解を図っているため、町では教育行政と各学校とが連携しながら教育活動に当たることができると言っても過言ではない。該当中学校出身生徒一人一人についての近況報告は、地元の中学校の関係者や行政側関係者の大きな関心事となっている。

#### ウ 青少年育成町民会議

青少年の心身の健全育成事業に積極的に参加し、非行防止に努めている。青少年育成

町民会議の募集する非行防止作文にも多くの生徒が応募し、入賞者が出ている。

#### エ 町交通安全教師の会

会員相互の交通道徳についての意識を高め、安全運転と事故防止の自主的研修や親睦を図り、併せて児童生徒に対する事故防止並びに交通安全教育の徹底に寄与することを目的として、町内9校（小学校7校、中学校1校、高等学校1校）約140人の会員が研修会や広報紙の発行などをおして、事故防止や安全教育に取り組んでいる。

#### オ 地区学校警察連絡協議会

大宮警察署管内の学校と警察との緊密な連携によって、児童生徒の非行防止を図ることを目的としている。管内小学校、中学校及び高等学校35校の校長と生徒指導担当者が、年3回連絡協議会を行い、共通理解のもとで生徒指導に当たっている。警察側からの最新情報や問題対策例などが、生活指導上大変役に立っている。

#### カ すこやか青春対策事業

この事業は思春期の男女に対し、広く人間性や母性・生命の尊厳について知識の普及や啓発を図ることを目的としている。平成6年度は全校生徒対象に、特に保健・医療の立場からの事例などを含めて、男女交際の在り方について考える機会とした。映画「生命創造」上映の後に、「男女のつきあい方（那珂郡医師会長）」及び「男女の生理について（保健婦）」と題する講話を行い、人間尊重や男女平等の精神に基づく正しい異性観を身につけさせると共に望ましい行動がとれるように意識の向上を図った。また、保健婦を講師に迎え、クラスごとにエイズについての指導を行っている。

#### キ 環境保全町民会議

環境保全町民会議は、郷土の美しい自然を守り、住み良い町を築きあげるため、町民が一体となって環境の保全運動を推進することにより、快適な生活環境の確保を目的として、環境美化運動や不法投棄をなくす運動などの事業を推進しているが、本校ではボランティア活動等を通じ、積極的に参画している。

#### ク 消費生活センターのヤング講座

消費者問題の複雑化、多様化にともない、若者が消費者トラブルに巻き込まれるケースが多く発生し、大きな社会問題になっている。そこで、最近の消費者問題に関する情報を提供し、消費者被害の未然防止を図ることを目的としている県消費生活センターのヤング講座を活用し、主に3年生を対象に実際的な消費者教育を行っている。

### 5 研究のまとめ

家庭と地域社会との連携は、生徒にとって貴重な体験学習の機会となっており、明るく人間性豊かな協調性に富む校風を育んでいるように思われる。特に、社会福祉関係に対する関心が高くなり、ボランティア活動などの実践活動に主体的に取り組むようになった。

また、連携は相互理解の深まりと協力関係の強化を促進し、それぞれがもつ教育力の相乗効果によって学校全体の教育効果を高め、特色ある学校づくりを目指した学校経営を進める上で欠くことができないものである。地域住民に「地域の学校・私たちの学校」との意識が芽生え、学校を中核とした地域社会の教育活動の広がりの中で、充実した教育活動ができた。

今後は、生涯学習社会を踏まえて連携をさらに深め、地域社会の教育環境を整えながら、それぞれがもつ教育力の適切な統合の下での学校経営を進めていきたい。